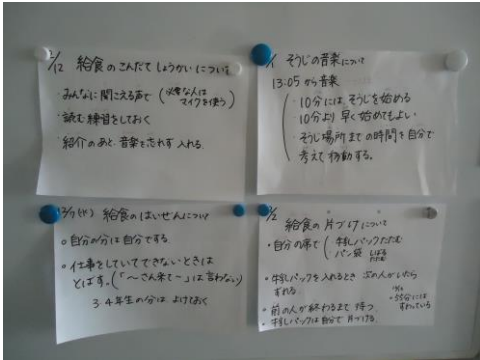


利賀っ子だより



R4. 12. 13

○ 自分の課題を見付ける



【みんなで確認したこと】

今年度のアクションプランの一つに「自分の課題を見付ける」という項目があります。

日々の学習の中ではもちろんですが、生活の中でも「どうしてかな」「これでよいのかな」と考える子供たちが増えてきました。朝の会の話題に、「給食の片付け」「給食の配膳」「掃除の時間の移動」等について出てくるのもその表れだと思っています。

「給食の片付け」の話題が出た時には、1年生から「給食の片付けに行ってよいかどうかをいつも上の学年の人が教えてくれるけど、ぼくも自分で時計を見て行きたい！」という発言がありました。

利賀小学校では、味わって給食をいただくために、給食の片付け開始は12時45分からとしています。1年生は、算数科で〇時、〇時半の時計の読み方の学習はしていますが、「45分」は、まだ学習していません。周りの子供たちが1年生を気遣って、片付けのタイミングの声をかけていたのです。

この発言で、いつも下学年のことを思いやって気を配っている上学年がいることが分かったと同時に、上級生を頼りにしないで自分の力でできることを増やしたいと思っている1年生のことも理解することができました。

「あ、そうか。」「45分は、長い針9だよ。」「9になったら（片付けに）行っていいけど、（長い針が）11になったら『ごちそうさま』だから座るよ。」など、あちこちから1年生に声がかかりました。

発言した1年生は、「やってみる。」と満足そうに席につきました。その日の給食の後、1年生から「自分で（時計を見て）片付けた！」と笑顔で報告がありました。

出てきた話題について一つ一つ確認することは、いろいろな立場を理解した上で、よりよい方法を見付けることにつながると思いました。行動や発言の裏には、それぞれの考えや思いがあること、聞いてみてはじめて分かる考えや思いがあることを実感することができます。今後も学習や生活の中で立ち止まって考えている場面を称賛していくことで、「自分の課題を見付ける」姿が増えるよう支援していきたいと思えます。

(高田 公美)